

令和2年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第5号（水稻）

令和2年7月30日発表
 広島県西部農業技術指導所
 対象期間 令和2年7月下旬～8月上旬



1		予報内容（8月上旬まで）		
病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち	早生・中生	並	やや多	◇中国地方1か月予報では、今後1週間発生に好適な気象条件となっている。 ◇7月下旬の降雨により感染に好適な状態となっており、穂いもちの発生が懸念される。穂ばらみ期、穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底する。 ◇穂いもちへの伝染源となるため、葉いもちが発生しているほ場では、直ちに粉剤、液剤で防除する。
	葉いもち	並	並	
紋枯病		やや多	やや多	◇中国地方1か月予報では、今後発生に好適な気象条件となっている。 ◇昨年度、発生が多かったほ場は特に注意する。 ◇分けつ数の多いほ場では、発生しやすいので注意する。 ●要防除水準：穂ばらみ期の発病株率が、早生品種では10%以上、中生品種で20%以上。
セジロウンカ		やや多	多	◇7月第4・5半旬の生育ステージは卵期～若齢幼虫期であった。 ※令和2年度 広島県病害虫発生予察情報技術情報第3号を参照。 ●要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上。
トビロウンカ		多	多	◇中国地方1か月予報では、今後発生に好適な気象条件となっている。 ※ 令和2年度 広島県病害虫発生予察情報 注意報第2号を参照。

コブノメイガ	中生	やや多	やや多	<p>◇7月下旬の生育ステージは成虫期である。</p> <p>◇飛来後第1世代の発蛾盛期（成虫が多く見られる時期）は南部、中部地帯で7月下旬、北部地帯で8月上旬である。</p> <p>◇飛来後第2世代の発蛾盛期は、南部、中部地帯で8月下旬～9月上旬、北部地帯で9月中下旬である。</p> <p>●早生品種では、穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回防除を徹底する。通常それ以降の防除は不要である。</p> <p>●中生品種や収穫時期の遅い品種は、被害株率20%を超える場合、粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後、・粒剤は発蛾最盛期に追加防除を行う。</p> <p>※令和2年度 広島県病害虫発生予察情報技術情報第3号を参照。</p>
斑点米カメムシ類 (カスミカメムシ類、その他加害種)※	-	-	やや多	<p>◇加害力の高いクモヘリカメムシの発生が、平年に比べ多くなっている。</p> <p>◇出穂期の防除時期を逸しないようにする。</p> <p>◇出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになる。早生では除草を控える。中生では出穂2週間前までに除草を終える。</p> <p>※カスミカメムシ類はアカスジカスミカメなどの小型のカメムシ類、その他加害種はホソハリカメムシなどの大型のカメムシ類。</p>

2

予報の根拠（巡回調査：7月20～22日、26地点調査）

(1) 葉いもち

◆巡回調査結果（北部：並、中部早生：並、中部中生：並、南部：並）

	北部・早生			南部・中生		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	16.7	46.3	0.0	60.0	47.5	60.0
平均発生程度	1.07	1.17	1.00	1.03	1.13	1.04

	中部・早生			中部・中生		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	28.6	40.2	14.3	50.0	50.5	25.0
平均発生程度	1.07	1.11	1.01	1.03	1.16	1.02

(2) 紋枯病

◆巡回調査結果（やや多）

	早生			中生		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	23.1	10.2	7.7	30.8	24.0	0.0
平均発生程度	2.8	0.6	0.6	6.5	3.7	0.0

向こう1か月の気象は発生に好適となっている。

(3) セジロウンカ

◆巡回調査結果（やや多）

	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	92.3	78.5	96.2
平均発生程度	1.55	1.58	1.41

向こう1か月の気象は発生に好適となっている。

【予察灯（呉市安浦町）での7月21日までの誘殺数累計】本年4頭、平年49.4頭、前年1頭。

(4) トビイロウンカ

◆巡回調査結果（多）

	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	26.9	0.8	7.7
平均発生程度	1.03	1.00	1.01

向こう1か月の気象は発生に好適となっている。

(5) コブノメイガ

◆巡回調査結果（多）

	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	69.2	18.8	11.5
平均発生程度	11.1	1.8	0.6

向こう1か月の気象は発生に好適となっている。

(6) 斑点米カメムシ類

【予察灯（呉市安浦町）での7月第1～5半旬までの誘殺数累計（アカスジカスミカメ）】

本年 27頭、平年 132.3頭、前年 177頭。

◆牧草地すくい取り調査結果については発生予察情報第3号を参照する。

「予報」「現況」は、「多～少」の5階級に区分して発表しています。区分の方法は、原則として、過去10年の数値を発生が多かった順に並べて、相対比較しています。

「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上

「やや多」 : 2～3番目と同程度

「平年並」 : 4～7番目と同程度

「やや少」 : 8～9番目と同程度

「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下

区分	多	やや多	並				やや少	少		
順序	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

3

その他の病害虫の発生状況（巡回調査：7月20～22日，26地点調査）

病害虫名	現況	防除上の注意事項等
ヒメトビウンカ	やや少	出穂前後の防除を徹底する。また、縞葉枯病を発病した株は抜き取る。
フタオビコヤガ (イネアオムシ)	少	穂ばらみ期防除を基本とする。

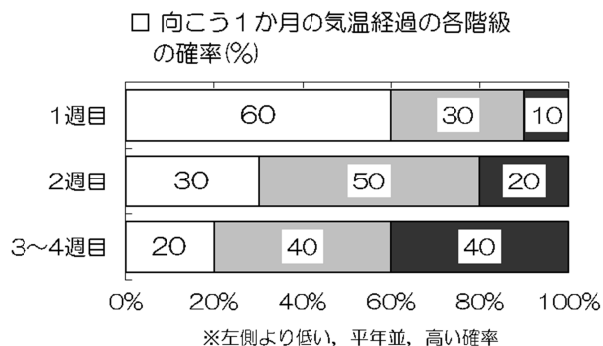
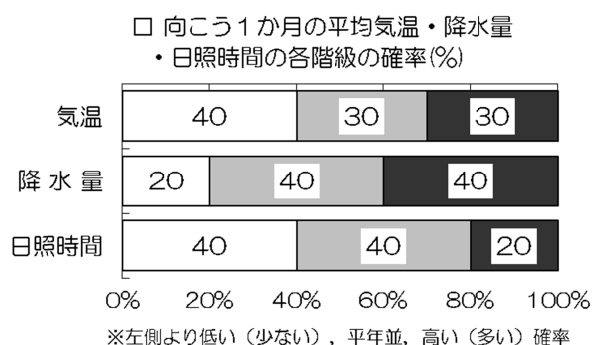
4

気象情報

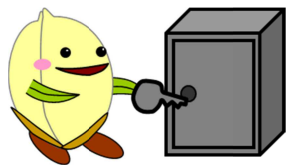
中国地方1か月予報（広島地方気象台7月23日発表，7月25日から8月24日までの天候見通し）

期間のはじめは，平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。その後は，平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

1週目は，寒気の影響を受けて気温は低いでしょう。3～4週目は，暖かい空気に覆われやすく気温は平年並か高い見込みです。



6月1日から8月31日まで，**農薬危害防止運動** 実施中！
 農薬を使う際は，容器のラベルをよく読んで，
 使用方法や注意事項を守り，農薬による危害と事故を防ぎましょう。



ぬの進



りもれん

○病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等の調査データは，広島県ホームページで閲覧できます。

広島 農業情報

検索

○お問合せ先：広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

(東広島市八本松町原 6869 tel: 082-420-9662)